

ifUNU Newsletter

公益財団法人 国連大学協力会

〒150-8925 東京都渋谷区神宮前5-53-70

TEL 03-5467-1368 FAX 03-5467-1349

URL <http://www.jfunu.jp/> E-mail jf@unu.edu

CONTENT NO.42 2022年10月

- 3年ぶりの実開催！国連大学サステナビリティ高等研究所大学院プログラム学位授与式
- 国連大学サステナビリティ高等研究所大学院プログラム奨学生活動報告会が開催されました
- JfScholarship特別賛助会員へThank you letterが手渡されました
- Discover Kabuki 初めての歌舞伎

3年ぶり、対面での開催！ 国連大学サステナビリティ高等研究所大学院プログラム学位授与式

2022年7月26日、国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)大学院プログラム学位授与式が、新型コロナウイルス感染対策に万全を期して、執り行なわれました。

2020年・2021年は新型コロナウイルス感染拡大の影響でオンライン開催でしたが、今年は実に3年ぶりのリアル開催。国連大学本部ビル2階のレセプションホールが会場となりました。

この日、ガーナやジンバブエ、そして日本等10か国から10名の修士が、スリランカとアメリカから2名の博士が誕生。このうち3名が、国連大学協力会が奨学金を支援してきた学生(jfScholarship生)でした。国連大学学長等の祝辞に続き、厳粛な雰囲気の中、山口しのぶUNU-IAS所長からアカデミックガウンに身を包んだ学生ひとりひとりに、学位が授与されました。その後、国連大学協力会の浅井孝司常務理事から、記念品として浮世絵柄の団扇が修了生の代表者に手渡されると、緊張した面持ちで授与式に臨んでいた学生たちから笑みがこぼれました。レセプションホールの外には、学生たちの研究内容を記したパネルが展示され、来場者の皆様に自身の研究を熱心に語る彼等の姿に、地球課題に取り組むたくましい研究者の誕生を見ました。

Dear Students, Congratulations !



上：式終了後の記念撮影
下：浅井孝司常務理事が団扇を贈呈



国連大学協力会
から毎年恒例の
歌舞伎の団扇を
贈りました！

国連大学サステナビリティ高等研究所大学院プログラム 奨学生活動報告会が開催されました



国連大学図書館で開催されました。
通常こちらのスペースはUNU-IAS大学院生が
対面で授業を受けているところです。

学位授与式に先立ち、2022年7月19日、国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)主催の、奨学生による活動報告会がハイブリッド形式(オンラインと国連大学での対面)で開催されました。この報告会は、UNU-IASの大学院生をご支援いただいた寄付者の皆様へ、寄付がどのように活用されているかを報告するとともに、奨学生との交流の場として昨年より催され、今年で2回目を迎えました。7月26日に学位授与される予定の学生8名による研究成果や学修活動の発表が行われ、国連大学協力会が奨学金を支援してきた学生(jfScholarship生)3名も発表に臨みました。

学生の発表は英語で行われましたが、発表資料は日本語で用意され、司会進行も日本語と、馴染みやすい形での発表会となりました。学生の研究テーマは、ESD、都市農業、公共調達など多岐にわたるものでした。

国連大学協力会を支援してくださっている寄付者の皆様も、画面越しではありますが、学生の研究結果や学修活動の様子に熱心に耳を傾け、発表に引き続いて行われた質疑応答でも活発な意見交換が行われました。

jfScholarship特別賛助会員へThank you letterが手渡されました

2022年7月19日、The Kojima Family Scholarship for UNU奨学生のMs. RIDZUAN OON, Aqilah Oon Binti(マレーシア)が2年間の学生生活を支えてくださった感謝の気持ちを伝えるため、jfScholarship特別賛助会員の小島三津雄氏と国連大学協力会事務所で面談、温かい歓迎を受けました。

2020年9月に修士課程に入学したAqilahさんでしたが、新型コロナウイルス感染症拡大で自国を出ることが出来ず、やっと日本に入学できた時は、2022年5月を過ぎていました。その間、実に1年と8カ月、リモートで研究を続け、修士論文に取り組み、日本で論文を完成させました。指導にあたられたUNU-IASの野口先生も「とても回復力のある生徒で、質の高い研究成果を達成、自慢の教え子となった」と絶賛。Aqilahさんは、マレーシアに戻りパーム油産業研究に携わりたいと抱負を述べました。

小島氏からは、今後についてのアドバイスや奨学金名の由来となったご家族についてのお話があり、「日本での修学に貢献できたことを嬉しく思います。帰国後ますますご活躍されることを祈っています。このご縁を大切に、今後も連絡を取り合いましょう。」とエールが送られました。



左: 研究内容を説明するAqilahさん



中央: 小島氏とAqilahさん
Thank you letterをお渡し



右: Aqilahさんを囲んで

Discover Kabuki

初めての歌舞伎

国連大学協力会では、国連大学で学ぶ外国人学生や研究者を、日本文化に触れてもらう機会として、毎年歌舞伎鑑賞会にご招待しています。2020年を最後に、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で開催を見合わせていましたが、2022年7月27日、2年ぶりに劇場へ足を運ぶことが出来ました。

感染症対策に万全を期して集まったのは、ガーナやフィリピンをはじめとする、10か国から12名の学生たち。この日は、国立劇場で、外国人のための歌舞伎鑑賞教室 - 『紅葉狩(もみじがり)』を鑑賞しました。前半は、解説「歌舞伎のみかた」。中村萬太郎さんと元フジテレビアナウンサーの木佐彩子さんとの英語を交えた軽妙な語り口に引き込まれてしまいました。後半は、「紅葉狩(もみじがり)」・「竹本(たけもと)」・「長唄(ながうた)」・「常磐津(ときわづ)」の3つの「音曲(おんぎょく)」によって、伴奏される舞踊です。平維茂(たいらのこれもち)による信州の戸隠山(とがくしやま)の鬼女退治を描いた同名の能の作品から歌舞伎化されました。戸隠山へ紅葉狩りに訪れた維茂は、更科姫(さらしなひめ)という姫に出会い、勧められるままに酒を飲みます。やがて更科姫は鬼女の正体をあらわして、酔いつぶれた維茂に襲い掛かりますが、維茂は名刀小烏丸(こがらすまる)によって難を逃れるというストーリー。2枚の扇を使用する振り付けの「二枚扇(にまいおうぎ)」、1人の俳優が、前半の典型的なお姫様の姿と、後半の激しい動きの鬼女の姿を踊り分ける点など、歌舞伎十八番の演目だけあって、見どころ満載。



国立劇場エントランスで記念撮影

- ・I particularly liked the makeup and costume design.
- ・The music was very intriguing, too!
- ・The use of instruments to accentuate the plot of the play fascinated me.
- ・The fight between the main protagonist and antagonist was interesting.
- ・The final fight scene was most interesting.

などと学生たちも、まさに見どころに惹かれ、艶やかな歌舞伎の世界にすっかり魅了されたようでした。

※ 撮影時のみマスクを外しております

国連大学大学院生を支援しませんか? ~jfScholarship for UNU賛助会員~

国連大学協力会では、国連大学サステナビリティ高等研究所大学院プログラムで学ぶ学生への奨学金として、彼らの日本での生活を支援する「jfScholarship for UNU賛助会員制度」を設けています。本法人への寄付には公益財団法人としての税制上の優遇措置が適用され、寄付者は所得税・法人税の控除が受けられます。個人の寄付については内閣府より税額控除制度の適用も認められております。

詳しくは
こちら



<https://www.jfunu.jp/support/>